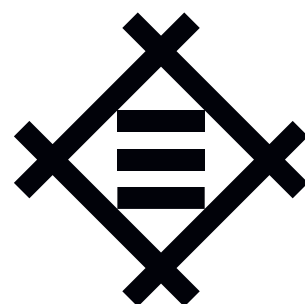


The Global In-House Lawyer as the Power for “Challenge & Innovation”



三井物産株式会社 法務部のご案内

mitsui & co.

Message

グローバルに展開される三井物産の「挑戦と創造」の前線で、 法務パーソンとしての矜持を胸に 自ら動き、挑み、高みを目指す志を持った方のために。

三井物産の法務部は、当社のグローバルな事業展開をその草創期から支え、とりわけ国際ビジネス法務に関しては、我が国の先端を切り拓き続けてきた存在であると自負しています。世界のあらゆる地域において重ねられる三井物産の「挑戦と創造」は、そのまま法務部にとっての前線であり、確かなプロフェッショナリズムと人間力を育む、かけがえのないフィールドでもあります。グローバルな舞台で自らの力を試してみたい、世界と関わりながら創造的な仕事に携わりたいと考えている方にとって、三井物産法務部は最良のチャンスを提供できる職場であることを、私はまず、ここで約束したいと思います。

法務という仕事を軸にして見ても、現代は極めてチャレンジングな時代とも言えます。地球規模の経済のグローバル化が進行する反面、保護主義的な動きも台頭してきており、こうした中で投資判断を行い、新たなビジネスを生み出していくためには、トラディショナルな法務的思考を超えた、政治・経済に対する俯瞰的視点が求められるようになっていきます。また、AIやIoTといったビジネスにおけるフロンティアの出現はそのまま、既成概念に囚われない柔軟な発想が求められる、リーガル面における新たなフィールドの登場を意味するものでもあるでしょう。加えて我々法務部は、コーポレート・ガバナンスやコンプライアンスといった、現代の企業経営において最も重視される根幹部分の中核的担い手、牽引力でもあります。三井物産は今や、世界66カ国・地域に拠点を配置し、連結4万4千人の社員を擁する（※2019年11月現在）グローバルなコンглоマリットと言える存在ですが、こうしたグローバルグループの法

務ネットワークの中心として、我々法務部にはますます大きな期待が寄せられています。

従って法務部のメンバーは、企業内プロフェッショナルとしての大きな期待を担っているという自覚をもって、困難な仕事に率先して挑み、最先端の法知識等を貪欲に吸収するといった自己研鑽を重ねることで、自らの法務パーソンとしてのレベルを高めていく努力を続けていかなければなりません。こうした知識、専門能力等の修得に関して、三井物産法務部が用意している研修プログラムは極めて充実したものであり、海外一流ロースクールへの派遣をはじめとして重層的に用意されたその内容は、世界的に見ても希有の水準にあると自負しています。更に、こうした専門能力の獲得以上に重要なのは、数多くの現場経験によって培われる、案件・事業・経営に対する確かな責任感、コミットメントの意識であり、豊かな人間力に他なりません。三井物産にはこれらを育むうえで最良のフィールドが限りなく存在しています。事業現場に寄り添い、共に事業創造を推進する業務は、我々インハウスの法務パーソンにしか得られない醍醐味と喜び、達成感をもたらしてくれるものです。そして、こうした専門能力と人間力を兼ね備えた法務パーソンの将来像として私が見据えているのは、個々の案件を超えて、事業・経営への確かな貢献を果たしうる「経営法務人材」として、多くのメンバーに世界中の三井物産の前線で活躍してもらうことなのです。

三井物産法務部に参加することで始まる心躍る「挑戦と創造」……それは、皆さん一人ひとりの可能性を飛躍させる、かけがえのない機会となることでしょう。



法務部長
高野雄市
Yuichi TAKANO

A Variety of Career Choices

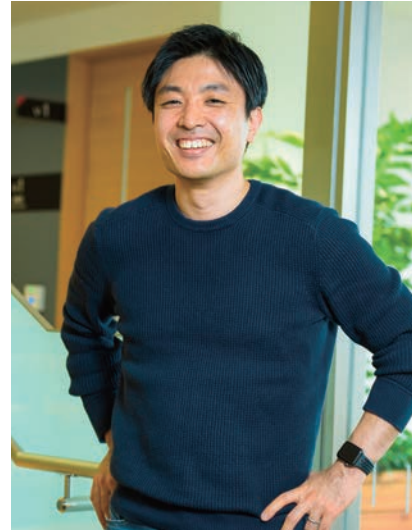
三井物産の「挑戦と創造」を支え、
未来を拓く推進力となるグローバル・プロフェッショナルとして。

現場で、当事者として事業をつくりあげる喜び……
その先に、“CLO”としての将来を見つめて。

現在担当しているアジアのある国での不動産開発プロジェクトでは、案件の立ち上げ段階からフルコミットする形で開発チームに参加し、2年以上をかけてようやくプロジェクトをテイクオフさせる契約の合意に漕ぎ着けました。この案件のように、世界中の現場で当事者として事業をつくりあげる過程に参加できることが、三井物産法務部で働くことの最大の醍醐味の一つであると思います。この事業は、同国最大規模の複合施設開発の中核を成す事業であり、交渉のカウンターパートは同国を代表する大手企業です。契約交渉のため何度も出張しましたが、交渉の大詰めの段階では、朝9時から夜中の2時までに及ぶ議論を4日間続け、案件成立に向けたギリギリの調整を行いました。こうしたチームの一員として意思決定に関与できるダイナミックな高揚感、喜びは、外部の弁護士では決して得られないものでしょう。

また私は、三井物産が新たな試みとしてスタートさせた新規事業開発のためのプラットフォーム、“Moon Creative Lab”の法務アドバイザーも担当しています。0→1で事業を創り出そうとしているアイデアオーナーの思いに真摯に寄り添い、未知のビジネスを生み出すサポートをしていく過程には、大規模プロジェクトとはまた一味違う、手触り感に溢れた新鮮さがあります。

このように三井物産の事業の面白さに魅せられている私が描いている将来的なキャリアイメージは、CLO(Chief Legal Officer)として経営の舵取りをする立場に立ってみたいということです。法務的見地から経営判断に関与していくCLOの重要性は近年ますます高まっていますが、グローバルに広がる三井物産のさまざまな事業の現場で、近い将来、CLOとして、思う存分力を発揮してみたいと考えています。



作本健太郎
Kentaro SAKUMOTO

【新卒採用】

- 2012年3月 法科大学院卒業
- 2014年4月 入社 法務部EMEA・CIS法務室
- 2016年1月 早期海外派遣（インド）
- 2016年10月 法務部アジア・大洋州法務室
- 2017年10月 法務部ヘルスケア・次世代機能推進法務室
- 2020年8月 法務部研修員（米国LL.M.）（予定）



金本綾希子
Akiko KANEMOTO

幅広い現場経験を糧に、法務領域にとどまらない
事業への貢献を実現する力となる。

三井物産入社以来現在まで、数多くの有意義な経験を重ねることができましたが、なかでも自分にとって大きな意味を持つものを挙げるとすれば、入社2年目から2年半勤務した関西支社での経験と、2016年から1年余り法務部研修員として派遣されたメキシコで、設立間もない自動車販売代理店に出向し、唯一の法務担当として働いたことです。関西支社は東京に比べると法務部の陣容も非常に小さく、ごんまりしている分、事業部との距離がとても近い。日常的な細かなやり取りも含めて、事業部の考えていること、思い等をしっかりと受け止めながら仕事を進めていく環境の中で若手社員の時代を過ごすことができたのは、とても有意義な経験だったと思います。私は「契約書は案件の設計図」だと考えていますが、それは、事業部が案件に託した思いをしっかりと把握したうえで、契約書をまとめなければならないという、この頃体得した信念に基づくものでもあります。またメキシコ時代は、異文化の中でメキシコ人上司・同僚の信頼を得られるよう努力しながら、契約のひな型作りやガバナンス体制の整備に奔走し、社会人として一回り成長できたことを実感した体験でもありました。

現在は、コーポレート法務と呼ばれる株主総会や取締役会の事務局業務を担当していますが、これまでの幅広い業務経験の中で獲得してきた現場感覚、俯瞰的視点を大切にしながら、法務領域にとどまることなく案件に付加価値を加え、事業を前進させる推進力となることのできる、“法務を武器にしたビジネスパーソン”を目指していきたいと考えています。

【新卒採用】

- 2012年3月 法学部卒業
- 2012年4月 入社 法務部法務第四室（アジア・大洋州法務室）
- 2013年7月 関西支社業務部法務室（在大阪）
- 2016年1月 法務部語学・実務研修員（メキシコ）
- 2017年3月 法務部米州法務室
- 2017年10月 法務部機械・インフラ法務室
- 2019年9月～ 法務部企画法務室

A Variety of Career Choices

「より良いビジネスをつくりあげる」という思いを事業部と共有し、信頼関係を築きながら仕事に取り組む喜び。

2019年4月からの半年間、私は、法務部の研修プログラムの一環である早期海外派遣制度によって、中国・上海にある三井物産（上海）貿易有限公司に派遣され、現地の法務部員と共に業務に携わる機会を得ました。この上海オフィスは、三井物産における中国ビジネス最大拠点の一つであり、さまざまな事業部が、躍進を続けるこの巨大市場に取り組む最前線を置く場所でもあります。私は中国を訪れるのはこの時が初めてで、もちろん中国語もできません。そんな私が、現地で雇用されている中国人弁護士等と席を並べて業務に取り組むことになったわけですが、この体験は私にとって、それまでの仕事に対する認識をガラリと変えてしまうような、刺激に満ちたものでした。派遣期間中は主に、風力発電事業の開発、現地大手カフェチェーン向けにコーヒー豆の焙煎工場を作るという、二つのプロジェクトを担当しました。現場を担う事業部と非常に近い距離で、密接にコミュニケーションを図りながら共に案件をつくり上げていくプロセスは、大変ではありましたが、非常に濃密で喜びに満ちたものでした。

「より良いビジネスをつくりあげる」という思いを事業部と共有し、積極的なコミュニケーションを通じて信頼関係を築きながら仕事に取り組むことがいかに重要であるかを、上海での経験は私に教えてくれたように思います。ここから開かれた世界をさらに突き詰め、法務的な視点に凝り固まった“頭でっかち”な法務部員ではなく、強い当事者意識を持って案件の良質化に貢献できる、事業部の良きガイド役、パートナーとなることが、目下の私の目標です。

【新卒採用】

- 2017年3月 法学部卒業
- 2017年4月 入社 法務部 アジア・大洋州法務室
- 2017年10月 法務部 金属・エネルギー法務室
- 2019年4月 早期海外派遣（上海）
- 2019年10月～ 法務部 金属・エネルギー法務室



海野洋平
Yohei UMINO



平良夏紀
Natsuki TAIRA

事業のテーマ、会社の考え方をしっかりと受け止めながら、世界を舞台に仕事ができる醍醐味。

私は、法律事務所勤務を経て2017年に三井物産にキャリア入社しましたが、法律事務所においてさまざまな案件を担当する中で、ビジネスや会社自体への興味が高まり、そこに自ら主体的に関わってみたいと考えるようになったことが、直接的な転職の動機でした。法律事務所は数多くの企業からの依頼に対応するわけですが、案件の背景にあるクライアントの思いがストレートに見えることはあまりありませんし、我々のアドバイスが最終的な意思決定にどのように作用したのかもわからない。そうしたことに対するフラストレーションを感じていた部分もあるでしょう。また法律事務所勤務時代は、米国、ヨーロッパ、台湾といったさまざまな国のクライアントを担当しましたが、クライアントが海外にいても日本の弁護士である私は日本法しか扱えない。日本で何か事が起こらないと私の出番は無いわけです。そこにある種の歯がゆさを感じていましたが、対して三井物産法務部では海外の弁護士と協働しながら世界中で仕事ができることを、嘱託経験を通じ実感しました。このあたりも、三井物産の門を叩ききっかけになったのだと思います。

三井物産法務部での仕事はやはり、事業に対する情報量が格段に多く、事業部や他のコーポレート部門と協力しながら仕事を進めることで、会社の考え方もダイレクトに伝わってくる。そうした意味では、求めていた仕事の形に近づけたと思います。こうした充実した環境を活かして、海外赴任やグループ企業への出向といったさまざまな機会にチャレンジし、リーガルマインドを持ちつつビジネス的なバランス感覚も備えた、会社や社会に貢献できるビジネスパーソンとなることが、当面の私のテーマです。

【キャリア採用】

- 2009年3月 法科大学院卒業
- 2011年1月 国内法律事務所入所
- 2015年8月 法務部総合開発室（嘱託社員）
- 2017年11月 入社 法務部化学品・食料流通事業法務室
- 2018年5月 産休・育休
- 2019年4月～ 法務部化学品・食料流通事業法務室

Business Area

三井物産法務部の主要業務領域は、以下3つの柱から構成されています。

■ビジネス法務

営業現場からの日常的な法律相談への対応から、M&A、インフラ建設、資源開発といった大型プロジェクトに関する契約書の起案・交渉支援まで、ビジネスに関する様々な法律業務を担当しています。また当社や関係会社が関与する訴訟や法的危機（様々なステークホルダーやメディア、政府・監督官庁等から非難・糾弾される可能性のある事態）において、会社の損害や信頼の毀損を最小限に食い止めるべく、社内外の関係者と連携しながら主体的な役割を發揮します。

■コーポレート・ガバナンス

会社の重要な意思決定機関である株主総会・取締役会の事務局として、コーポレート・ガバナンス強化に向け諸施策を企画・実行しています。またガバナンス体制の充実に資する提言を経営陣に対して行うほか、重要な社内制度や社内規程の立案に関する支援・助言など内部統制体制の整備・向上にも貢献します。

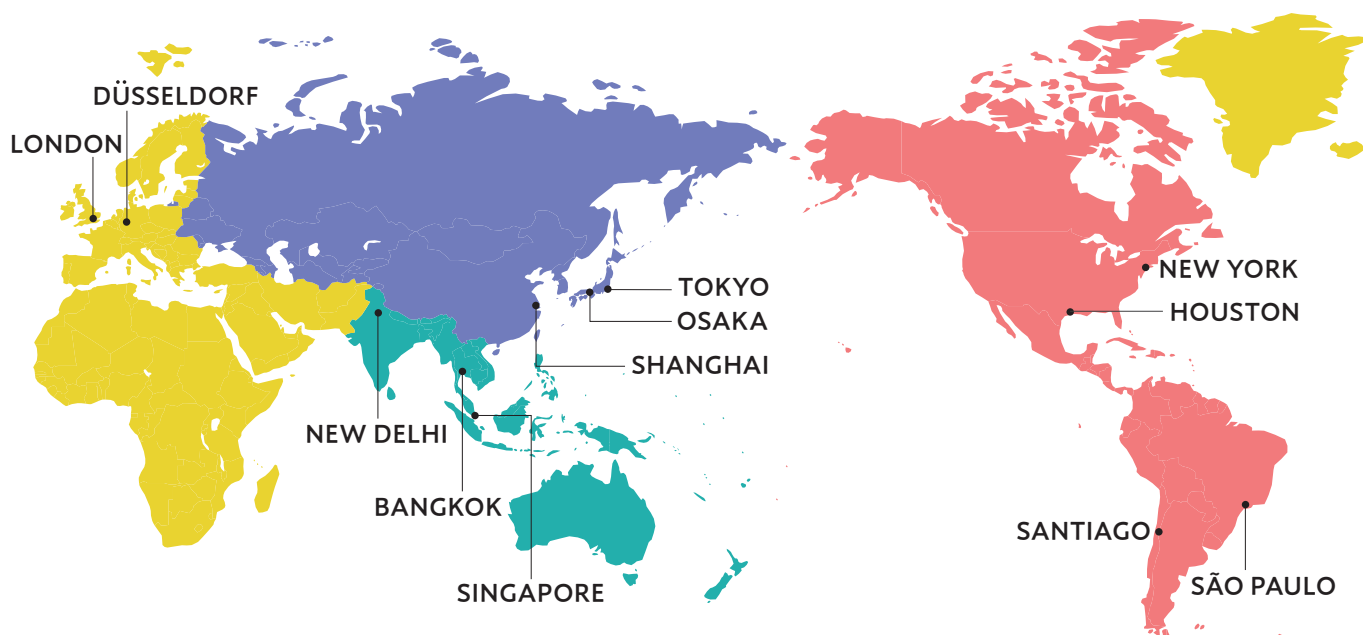
■コンプライアンス、Integrity推進

ビジネスの基盤は「信用」であり、この「信用」を守り育てるための必要最低条件であるコンプライアンスについて、社内体制の構築・維持・強化を推進します。またコンプライアンスの追求においては、単なる法令や規範の遵守に留まらず、企業人としての良識や品格、すなわちIntegrityに照らして、自らの言動に誤ったところが無いかを常に検証しながら、日々の仕事に取り組む姿勢を持つことが重要です。当社ではこのIntegrityを三井物産グループ全体の行動指針として掲げており、法務部はこのIntegrityを社員レベルまで浸透させるための諸施策を企画・実行しています。

Global Network

世界に広がる三井物産の主要拠点がビジネスフィールドです。

三井物産の法務部は、当社が展開するグローバルビジネスにおける多種多様な課題に対応するために、日本国内に加え、米州、欧州、アジアなど、世界の主要都市に法務組織を設け、そこに法務部員（本店採用職員）を配置しています。また、この地図上の都市における当社法務組織に限らず、法務人材は、他のコーポレート部門、事業部、関係会社など国内外の様々なポジションで活躍しています。



Function

法務部の機能 「多様なプロ人材が総合的な法務戦略により企業価値を高める」

三井物産法務部が果たすべき機能は、大きく次の4つ、「NAVIGATOR」「EXPLORER」「ORGANIZER」「GUARDIAN」に整理できます。各機能の概要や具体的な業務例は、下記に図示した通りです。当法務部員は社内外関係者の期待を常に意識し、実務の場面ではこれらの機能を有機的に混ぜ合わせながら発揮することで、企業価値の向上に貢献しています。

NAVIGATOR

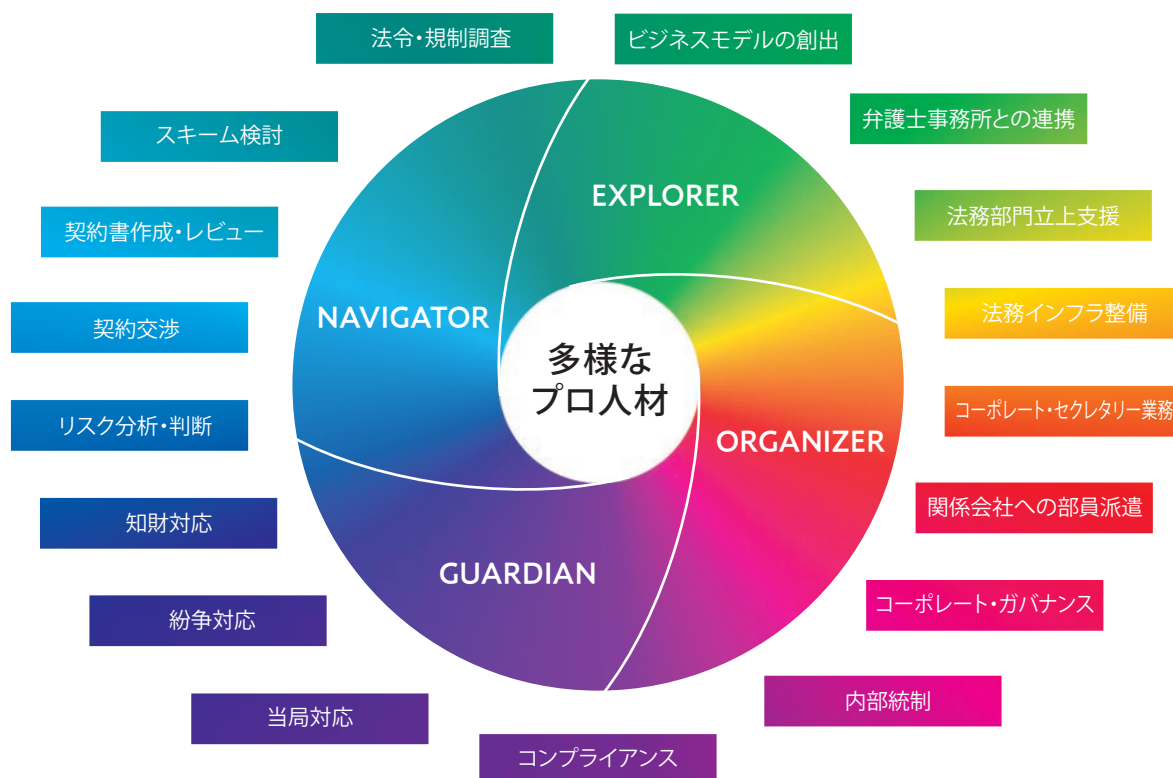
法的課題が複雑化・多様化する中、「航海士」として経営陣や事業部門にリスクの所在を知らせ、滞りなく事業活動を行うことができるよう進むべき道を示す。

例：M&Aやインフラ・資源開発等の大型プロジェクトに関する契約書作成・レビュー等を、国内外の有力弁護士事務所と連携しつつ担当。時には数千億規模の大型インフラ案件における海外国営企業との出張交渉にも同行。

EXPLORER

「探検家」チームの一員として、経営陣や事業部門と共に未知の領域で展開するビジネスの手段や方法を見つけ出す。

例：新規事業分野について初期の検討段階から法的課題や解決法を事業部門にアドバイス。時には社内ベンチャー組織に部員を派遣し、案件を「つくる」段階から法的サポートを提供。



GUARDIAN

「守護者」として、あらゆるリスクから会社を守る最後の砦となる。

例：環境問題等起因して発生する大型損害賠償訴訟など、会社に甚大な影響を与える事件や事象について、迅速かつ合理的な解決に導く。

ORGANIZER

社内外の連携・関係強化・体制構築を通じ、会社内の「世話役」として経営陣や事業部門の円滑な事業活動の遂行を図る。

例：多種多様な約500の連結関係会社に対して、法務課題への対応から法務部員派遣、また法務部門立ち上げやコンプライアンス体制の構築などについて、グループ・グローバルベースで支援。

How to Contact 応募方法について

■三井物産株式会社として新卒採用（職務経験のない方）、キャリア採用（業務経験のある方）を行っております。詳細は当社採用HPにて随時ご案内致しますのでご覧ください。

<http://www.mitsui.com/jp/ja/careers/index.html>

